

今日の黙想のてびき

週日聖書日課 詩編 89:37~53
2026年7月15日(水)

◆文脈と言葉

- この詩編は、前半(1~19節)で力強い万軍の主(6-9節)、天地創造の主(10-13節)、公正と正義によってイスラエルを守る神(14-19節)として主を賛美します。
- 後半(20~53節)はダビデを通しての支配と守りを語り、けれども王国の滅亡によって苦難に陥る民の嘆きと救いの願いをダビデの罪になぞらえて歌います。

◆あらすじと黙想のヒント

- 主はダビデを決して欺かないと約束なさいます。子孫が永続すること、その王座がいつも主のみ前にあり、雲の中の確かな証人（主ご自身をあらわす）ほどに確かに立つことを約束なさいます(36-38節)。
- けれども、この油注がれた者ダビデは退けられて、この約束は破棄されました。その徹底した様子が39-46節まで歌い上げられます。ダビデの最期はそこまでひどいものではありませんでしたから（列王記上2章）、これは王国自体の滅亡（バビロン捕囚）のことと考えられます。
そうであれば、神が気まぐれでダビデを退けたのではなく、イスラエルの民全体と指導者の罪の結果と言えるでしょう。
- 47-53節で、救いを求める嘆きが歌われます。破滅の現状にもかかわらず、神への信頼は失われていないのです。
- ダビデ王（朝）への慈しみと救いの願いから、救い主がダビデの家系に生まれるとのメシア待望が生まれました。イエス・キリストはこの詩の祈りの実現として与えられたのです。